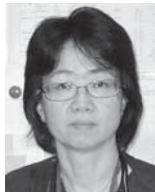


今回は、第一診療部長兼第一内科長の平カヤノ医師にお話を聞いてみましょう。

Q 心房細動（しんぼうさいどう）について教えてください。

A 心房細動は、長嶋茂雄さんやオシム監督が脳梗塞で倒れたことにより有名になった病気です。心房細動は急に脈がみだれたり、とんだりする不整脈の病気のひとつで、疲れやストレスのときなどに動悸を感じることで気づきます。心臓に病気がない人でも、年齢とともに起こりやすくなり、80歳以上の日本人の10人に1人が心房細動を持っているといわれています。



この心臓の病気が、どうして脳梗塞と関係するのでしょうか。心臓の中の心房という部屋が、細かく震えることにより有効に収縮せず、中に血の塊を作りやすくなるのです。できた血栓は血液の中にばらまかれ、脳の血管をつまらせれば脳梗塞になります。特に脳梗塞になりやすい人は、①一度脳梗塞になったことのある人②糖尿病の人③高血圧の人④75歳以上の人⑤心不全を持っている人といわれています。このようなリスクがある人は、不整脈の治療だけでなく脳梗塞の予防薬も必要になります。

不整脈を感じたらまずかかりつけ医を受診し、心電図をとってもらいましょう。一枚の心電図で診断することができます。その後の治療については、循環器内科にお任せください。リスクや症状に応じた治療をオーダーメイドで行います。